

学会誌用字用語表記について

農業農村工学会誌の表記は、『農業農村工学会誌』原稿執筆の手引き」Ⅲ.1.に、

⑤ 仮名づかいは、現代仮名づかいとします。

⑥ 数字は、アラビア数字を用いて、3桁ごとにカンマを入れます。

⑦ 術語および単位は、農業農村工学標準用語事典を原則とします。ただし、慣用術語と従来単位は尊重します。

との規定がありますので、改訂6版農業農村工学標準用語事典（以下、「用語事典」という）で使われている表記と常用漢字表を基本に、以下の慣行に従っています。

ただし、著者が希望する場合には、当該文献内で統一がとれていれば、できるだけ著者の希望に沿うようにいたします。

1. 当用漢字表（現在は廃止）の注釈に、副詞・接続詞・感動詞・助動詞・助詞等は仮名書きが望ましいとされていたため、慣行として常用漢字表に記載されていても原則仮名書きとしていたものがあります。また、補助動詞（「動詞+だす；動きだす」など）、当て字（美味しい→おいしい）は基本的に仮名書きです。

例)

あらかじめ	あり方	あるいは	いかに	いくつか	いったん
いまだ	おおむね	おのおの	および	きわめて	さまざま
さらに（なる）	したがって	しばらく	すでに	すなわち	すべて
ぜひ	そのうち	たとえば	なかでも	なぜ	ならびに
なんとか	まず	ますます	また（は）	もし	
～くらい	～こと	～ごと	～ごろ	～（し）がたい	～してください
～（し）にくい	～（し）やすい	～たち	～ていく	～ていただく	～できる
～とともに	～など	～に当たり	～にもかかわ らず	～にわたり	～のたびに
～のとおり	～のほか（に）	～ほど	～ように	～わけ	～をもとに（※基 の漢字の場合）
○カ年（「カ」 は小さいカ、 箇は不可）	～ある（動詞 「有る」は不 可）	～ない（動詞 「無い」は不 可）			

2. 常用漢字表にない漢字・読みは原則仮名書きですが、漢語など仮名書きでは意味が通じにくいものは振り仮名（ルビ）を振ることで許容しています。
3. 農業農村工学分野に関連する語句は、常用漢字表にない漢字でも用語事典に準じて使用しています。

例)

灌漑	灌水	圃場	暗渠
攪拌	充填		

※なお、事業名などは固有名詞扱いとし、当該名称内に「ほ場」「かんがい」等、仮名書きが使用されている場合はそのまま仮名書きとします。

4. 複合の語の送り仮名は、名詞の場合は途中の送り仮名を省いて末尾のみに送り仮名を付けるという慣行があります。動詞の場合は省略しません。

例)

名詞	動詞
組合せ	組み合わせる
組立て	組み立てる
取組み	取り組む
聞取り	聞き取る

5. 以下の用語は、慣行として学会誌全体で表記を統一しています。固有名詞を除いて旧字体は使用せず、新字体や略字を使用します。

例)

作付け	すべり (面) (名詞)	ホームページ (「HP」は不可)	わが (国)	攪拌	充填
-----	--------------	---------------------	--------	----	----

6. 本文中で用語や名称を著者独自に定義づける場合、(以下、「○○」という)の形式に統一しています。特に、用語事典に表記がない用語については、正式名称で記載し、必要に応じて定義づけてください。また、日本語を英語表記に言い換えたとき、頭文字をつないで略記する場合(一例 Unmanned Aerial Vehicle ; UAV)は、上記の形式文に則る必要はありません。

7. 年の表記について、報文やリポート内で統一をしてください。西暦なら西暦のみ、和暦のみなら和暦のみです。また、西暦と和暦を併記する場合は、下記の表記方法に従ってください。

・西暦と和暦を併記する場合

例：2023 (令和 5) 年 または 令和 5 (2023) 年

8. 2つの数字で期間や範囲を表す場合は、記号「～」を使用する場合とひらがなでつなぐ場合とで表記が変わります。下記の表記に従ってください。

例 1：1900～2023 年度 5～10 m²

例 2：1900 年度から 2023 年度まで または 1900 年度から 2023 年度にかけて (にわたり)

5 m²から 10 m²まで または 5 m²から 10 m²にかけて

9. 学会誌の句読点は、和文フォントの全角で統一しています。読点を、欧文フォントの記号「,」と半角スペースをあわせて表記することや、句点を、記号「.」で表記することは避けてください。

10. 作物名は、学会誌の慣行としてカタカナが望ましいです。ただし、梨団地といった複合語やブランド名、また、学問分野の通例に準拠する場合はそれに限りません。

例) 梨→ナシ、みかん→ミカン、大根→ダイコン、じゃがいも→ジャガイモ、かんしょ・甘藷→カンショ、馬鈴薯→バレイショ、玉ねぎ→タマネギ、なす→ナス、小松菜→コマツナ、蕎麦・そば→ソバ

11. 種の学名は、イタリック体とし、属名の頭文字は大文字、種名(種小名、種形容語)は小文字で記載するのが望ましいです。

12. 単位記号や法人名の略語に、組文字を使用することは避けてください。

13. 学会誌では、著者が文中で自身を指すとき、三人称の「著者」ではなく一人称の「筆者」と表記することを推奨しています。

以上